

被爆・戦後80年

想いをつなぐ 今 継承のとき

全国の生協では、「平和とよりよいくらしのために」を合言葉に、被爆者会の方々をはじめ、個人・団体と連携して、平和を実現するための活動を行ってきました。被爆・戦後80年の節目の今年、おかやまコープは、戦争を知らない世代への「継承」をテーマに活動しています。岡山県内の小学生らが岡山空襲をテーマに作成する子ども平和新聞の企画や、講演ワークショップを通じ戦争も核兵器もない未来を考えるイベント「平和のひろば2025」も開催しました。

生活協同組合おかやまコープ

くらしをつくる

vol.24

今年是被爆・戦後80年。そして国連が定めた「国際協同組合年」です。この二つの重要なテーマについて、生活協同組合おかやまコープ(岡山市北区奉還町)が大切にしていたことや取り組んできたこと、そしてこれから推進していくことを紹介します。

おかやまコープのビジョン

想いがつながる

笑顔あふれる

くらしと未来



おかやまコープ公式キャラクター
ももずきんにゃん

国連は、さまざまな分野でSDGs(持続可能な開発目標)に貢献している協同組合を評価し、その認知の向上と振興のため、2025年を2回目の「国際協同組合年」と定めました。国会でも「国際協同組合年」に当たり協同組合の振興を図る決議が採択され、協同組合が地域づくりの重要な主体として位置付けられています。岡山県内でも、おかやまコープと農業協同組合(JA)、漁業協同組合などが地域の課題解決に向けた協働の取り組みを進めています。



国際協同組合年

協同組合はよりよい世界を築きます



アマモ場再生

漁協の取り組みを支援

海草・アマモが群生した藻場は、海の生き物の「隠れ家」。や産卵場所になったり、光合成で酸素を生み出し、多様な生き物の命を育む「海のゆりかご」と呼ばれています。しかし、高度成長期の水質悪化や沿岸域の開発などによって、岡山県内のアマモ場も激減。漁獲量の減少に危機感を持った地元の漁協関係者らが長年、アマモ場の再生活動を展開しています。

おかやまコープでは、2010年から、取り組みの支援を始めました。22年以降、岡山県、日生町漁協(備前市)、邑久町漁協(瀬戸内市)、笠岡地区漁業連絡協議会(笠岡市)、NPO法人「里海づくり研究協議会」(岡山市)と協定を締結。毎年、多くの組合員が備前市の日生沖などで、アマモの種取り、種の選別、種まきなどの活動に参加しています。

また、県が実施する「藻場環境調査事業」に対し、寄付金を贈呈しており、これまでの累計金額は約250万円に上ります。今後もおかやまコープは、地域の再生につながる活動に力を入れ、他の協同組合と一緒にできることを見つけて実現していきたいと考えています。



JAと協力し安定供給



おかやまコープは、JA金農おかやま(岡山市)と手を携え、安全・安心の食材を届けます。おかやまコープの産直第1号商品「コープ産直こめたまご」は、岡山県内の農場で生産されています。そのうちの一つ、2023年春に開設の新鶏舎「コープスターファーム」(井原市)は、岡山JA産が整備しました。親鶏にできるだけ快適な環境を整え、給餌・集卵や鶏ふん処理を自動化するなど生産者の負担を軽減する最新設備を導入。生産者の高齢化が課題となる中、協同組合間で協力し合い、持続可能な生産と安定供給を目指しています。

コープスターファーム 山室尊則農場長
コープの産直たまごを作り続けて30年以上になります。この農場に携わり、働き方も変わりました。これからも安全・安心でおいしいたまごをお届けします。



餌にこだわった「コープ産直こめたまご」

「コープ産直こめたまご」のお試しができるコープ商品セットの申し込みはこちら。生協の配達(宅配)を利用していない世帯のみ注文が可能です。



子育て応援

子育てくらぶにこここ

妊娠中や子育て中の家庭を応援する「子育てくらぶにこここ」。おかやまコープの子育てサポート制度で、現在、8000人を超える組合員が登録しています。登録すると、会員の交流サイトを通じて、情報交換ができます。1歳の誕生日には絵本を、2、3歳の誕生日には、おやつ詰め合わせをお届けしています。登録は無料です。



個性手数料サポート割引

小学校就学修了まで個別配達の手数料が半額になるサポートもあり、成長に合わせた支援が寄与しています。

誕生日にプレゼント



「はろーべいびーせっと」は、岡山県に住む、

「はろーべいびーせっと」は、岡山県に住む、

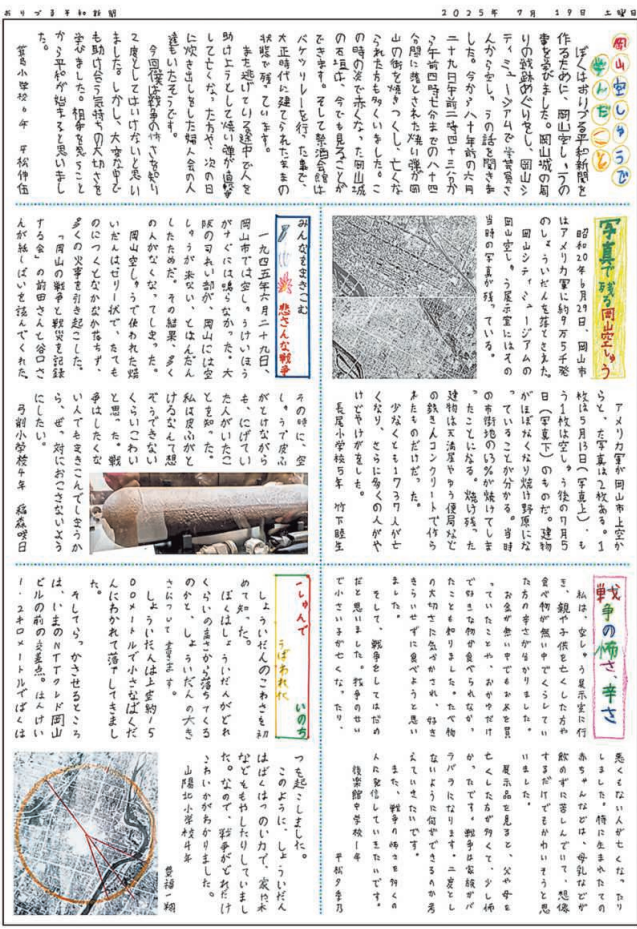


岡山で生まれ育つ赤ちゃんの子育てを応援する商品の詰め合わせ「はろーべいびーせっと」

問合せセンター ☎ 0120-662-538

月～金曜 8:30～20:00 土曜 9:00～17:00

企画・制作／山陽新聞社広告本部



岡山県立御野小学校4年
信岡 里美さん
戦争を初めて身近に思える戦争の恐ろしさ、平和がずっと続いてほしい願いを記事や見出しに込めて



赤松市立山陽小学校4年
増永 朱里さん
岡山城の被害に驚き



倉敷市立長尾小学校5年
竹下 睦生さん
空襲のつらさ感じて

子ども 平和新聞

「岡山空襲」をテーマに、岡山県内の小学生らが平和の想いを訴える新聞「おりづる平和新聞」作りに挑戦しました。市グループ「岡山の戦争」戦争を記録する会」の案内で、実際に岡山市内の戦跡を巡り、131発表員一枚にまとめました。

おかやまコープが被爆・戦後80年の節目に企画「岡山市、久米南町などの小学生8人が、山陽新聞記者から取材のつなぎを介して、6月下旬、岡山城周辺の戦跡を訪ねて取材。焼け落ちた天守閣の柱



焼け焦げた跡が表面に残る「礎石」を見る子どもたちー6月、岡山市

戦跡巡り取材、執筆

を交えていた礎石などを見て回り、岡山シニアミニシアター(岡山市北区駅元町)では、岡山空襲展「空襲の学芸員の解説を聞きながら、実際に使われた焼手弾も見学しました。新聞は「戦争のない明るい世界を」との見出しで、それぞれ書き入りの執筆。戦争の爪痕を見聞き、「一相手を思うことから平和が始まる」「戦争は一度と起こってはいけいない」などと、決意を新たにしています。

平和のひろば2025



ピースアート制作のワークショップで、ハート形の和紙に色を塗る子どもたち

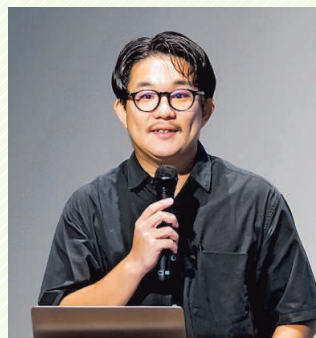


紙芝居の朗読もあつた。この紙芝居は、笠岡市在住の被爆者土屋圭子さんの被爆体験をもとにした「ピカドン」の恐ろしさを体験して、をデジタル紙芝居にしたものです。

戦争も核兵器もない未来を考えるイベント「平和のひろば2025」(おかやまコープ主催)が7月26日、岡山市北区奉還町のオルガホールで開催されました。長崎県出身の被爆3世で一般社団法人「Peace Education Lab Nagasaki」代表理事の林田光弘さんが「長崎が最後の被爆地であり続けるために」と題して講演。山陽学園中学校・高等学校JRC部の生徒が制作した被爆者の紙芝居と朗読も行われ、約220人が平和について思いを巡らせました。

一般社団法人「Peace Education Lab Nagasaki」代表理事 林田 光弘さん
講演「長崎が最後の被爆地であり続けるために」

被爆者の声聞き実相伝える



はやしだ・みつひろ 長崎県出身の被爆3世。ノーベル平和賞を受賞した日本原水爆被害者団体協議会(被団協)の一員として、2024年12月の被団協に最年少メンバーとして出席した。1992年生まれ。

高校3年の2010年5月、核拡散防止条約(NPT)再検討会議で渡米した際、世界の人は被爆の実相を知らないと痛感し、平和について深く考えるため東京の大学へ進学。現在は長崎に戻り、外国人観光や修学旅行向けの平和ツアーなどを企画しています。核兵器廃絶に向け、私たちにできることは何か、被爆の実相を世界へ伝える、被爆体験の特殊性を確認・理解して発信することです。そして何より大切なのは、戦争をしない・させないこと。原爆投下は突然起きたことでは、日本が戦争をしていただからという事実を忘れてはなりません。あらゆる努力に向き合い、戦争の芽を摘むには何ができるかを考えることが平和につながると思います。



紙芝居を朗読する山陽学園中・高の生徒たち

